

令和元年 第5回 根室市教育委員会 会議録

1. 公開案件の審議

- (1) 議案第18号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に関する報告書に作成及び議会への報告について

結 論 原案どおり決定

- (2) 報告第3号 事務の臨時代理の報告について

結 論 報告を承認

2. 非公開案件の審議（会議録省略）

- (1) 議案第19号 教育上特別な支援を必要とする児童の教育措置に係る諮問について

結 論 原案どおり決定

- (2) 議案第20号 令和元年度根室市文化賞（奨励賞）受賞者の選考に係る諮問について

結 論 原案どおり決定

- (3) 報告第4号 教育上特別な支援を必要とする児童の教育措置決定の報告について

結 論 報告を承認

3. 意見交換

○目的

教育行政の課題についての情報共有、さらには頂いた意見を今後の事務を進める上での参考とするために行うもの

○テーマ

- ・「子どもたちのスポーツ活動等について」

【 教育部長 】

今回の意見交換テーマは、「子どもたちのスポーツ活動等について」とする。平成30年7月に学校における働き方改革の為の業務改善計画を策定し、計画の中で子どもの体験活動などの市内各種団体と教育委員会主催事業については、学校を通じて案内文書を各家庭に配布しているが、学校の負担軽減の為、参加者の取りまとめ及び申し込みについては学校としては行わず、各家庭の判断にゆだねることになった所である。その結果、各種大会の参加者数が減少しているという現在の状況である。まず、小学生陸上競技大会、これは社会体育課が所管しており、平成28年度雨天中止、平成29年度57名、平成30年度47名、今年度は32名という状況だった。次に、根室市スケート大会、こちらも社会体育課が所管しており、平成28年度96名、平成29年度71名、平成30年度61名と徐々に減少しており、やはり学校の取りまとめが影響してきていると考えている。次に、児童生徒音楽大会、こちらは文化会館事業担当が所管しており、クラス単位の合唱がなくなった影響が大きく、平成29年度から合唱なしとなったことで参加者が激減し、平成29年度は267名、昨年は271名となっている。続いて、子ども長靴アイスホッケー大会、社会教育課の所管であり、平成28年度183名、平成

29年度79名、昨年には21名と参加者が激減しチームを組むのが難しいという状況になっている。一方、こども百人一首かるた大会については、同じく社会教育課所管だが、放課後児童教室の先生方が一生懸命取り組んでくださり、チームもそこで作っている関係で、逆に参加者が増えていっているという状況であり、平成28年度33名、平成29年度43名、平成30年度55名という状況となっている。児童生徒音楽大会や長靴アイスホッケーなど比較的チームや人数で組織する部分での減少というのが顕著になってきており、学校を通じてとりまとめてもらっていた部分の役割を果たす機能というところがないというのが、大きな要因になっていると考えている。これらを踏まえ、今後の在り方について検討する際の参考にするため意見を伺いたい。

【 委 員 】

やはり先生たちが大手を振ってやらないと、それぞれの少年団は其中で、それぞれ声かけてみんなで出ましようってなるとやらないですね。先生と親が一生懸命音頭をとって参加者を集めていたものが、先生が関わらなくなるとなかなか難しい。スケートや長靴アイスホッケーについては参加者が減っているというよりも、小学校で水まきをしてリンクを作らなくなったから、長靴アイスホッケーの練習をする場所がないということが影響しているのではないかと思う。合唱をやっていた時はクラスで出ていましたが、みんなで出ましようと言わなくなると、それぞれの得意なピアノやエレクトーンなどの個人しか参加しなくて、人数が減ってしまうのは仕方がない気がする。

【 委 員 】

長靴アイスホッケーはクラス単位で練習したり、合唱もみんなで練習したり、先生がクラスをまとめなくなると出来ないものは出来ないのだろうと感じる。何が何でも大会を維持するという話ではなくて、中止も含めて検討していく時代に入ったのかなと感じる。ただ参加者を集めればいいのかではなくて、現在ある大会に変わる何か別のテーマをしぼってやっていくしかないのかなと。スケート大会となるとやはり真剣に練習している子どもたちが中心に参加していると思うし、これまで少年団に入っていない子が参加してきた理由がおそらくクラス単位の行事として参加していたのかなとも思う。既存の大会を維持する意味もあると思うが、中止も含めて違う何かを見つけてやるのもいいかなとも思う。

【 委 員 】

私の小さい時は、先生たちが一生懸命やってくくださり、長靴アイスホッケーや合唱に参加していたが、現在、働き方改革で先生たちが出られないとなって、また、子どもたちの数も減っているので、参加者を増やすのは難しいと感じる。団体競技ではなくて少人数でできるものには希望があるのかなと思うため、その辺りから何かを探っていければと思う。

【 教育指導参事 】

先生の指導が子どもに与える影響はすごく大きいと思う。放課後児童教室でいろ

んな活動をする中で、百人一首や将棋を教えてくれる先生がいて、今までゲームばかりやっていた子どもが面白がって将棋やろうって誘ってくるようになった。こういった先生の指導の影響はとても大きくて、そこはなかなか親にはできない教育だと思う。放課後教室も、保育所や幼稚園で一緒だった友達がみんないて、仲間が集まっていなと感じている。4年生になると少年団が始まったり、上級生になると一人で留守番できるようになってしまい、放課後教室に行かなくなってしまいが、放課後教室で学んだことはすごく身に着いているのではないかと感じている。

【 委 員 】

働き方改革が始まってから先生方は授業に集中できたり、余裕が出てきたというような変化はあるのか。

【 教育指導参事 】

例えば陸上競技大会も、小学校の先生に頼ることが非常に多く、競技役員から選手の引率などすべて小学校の先生でやっていた。このことについて長年協議されてきて、小学校側からもこれを改正できないのかということを取り上げてきていた中で、働き方改革が始まり、少年団活動も勤務時間外で指導するのは可能だが、勤務時間中は指導に入れないということと合わせて、教員の働き方改革ということで取りまとめなどをしなくなり、こういう結果になった。しかし、現在、先生方に余裕があるのかと言えば、余裕はできていない。また、児童生徒音楽大会も小学校の学級単位で合唱に参加しなくなったのは時数確保のためで、これまで全員が参加したら振替で月曜日休みにしていた学校も、授業日数確保のためにそれが出来なくなった実態があるのかなど。ただ、百人一首は放課後教室の先生方の指導のもと参加者が増えてきていて、安定しているということもある。長靴アイスホッケーはスケートリンクの影響があると思う。そのリンクを作らなくなったというのも、雪が少なくなったということと先生方の夜間勤務を命じることが出来なくなったということがあり、リンクを学校で作れなくなった経緯がある。

【 教育部長 】

意見があったように、ものによっては新たなニーズを探ってみるということと、組織化というのは、放課後教室を活用するなど検討してみたいと思う。

【 教育長 】

意見を参考に今後どのような対応をすべきかの参考とさせていただく。

午後2時40分 閉会